



谷口 和弥 議員  
(拓政会)



近年、格安航空会社（ＬＣＣ）の参入、道東自動車道の延伸、帯広・広尾自動車道の延伸に加え、来年には北海道新幹線が開通予定など、北海道の観光を取り巻く環境は大きく変化しようとしている。幕別町にも一人でも多くの観光客に立ち寄ってもらうために効果的な施策を実行していく必要がある。

これまでも幕別町は、町のにぎわいづくり、経済の活性化の視点に立って、自然、景観、産業などといった地域の資源を観光資源として、魅力発信・観光プロモーション事業を中心に施策を展開してきたところである。ついては、以下の点について考えを伺う。

(1) 幕別町の観光入込客数と宿泊者数、外国人宿泊者数の推移について。  
(2) 今後予定している観光情報の発信、観光プロモーションの展開について。  
(3) 「地方創生先行型交付金」を基にした「忠類地域魅力発信事業」の進捗状況について。

**問** 旅行先に選んでもらえる幕別町にするために、情報発信の強化や観光資源の磨き上げなど、地域のさらなる魅力づくりを推進する

- (4) 各種スポーツ大会の開催状況、スポーツ合宿の誘致に向けた取り組み状況について。  
(5) 新たな「道の駅」を、あるいはそれに準ずるような地元物産品直売所を新設する考えは。  
(6) 「地方創生人材支援制度」の活用や「地域おこし協力隊」委嘱などの考えは。

**町長**

(1) 観光入込客数と宿泊者数、外国人宿泊者数の推移

	H 22 年度	H 26 年度	増減（率）
観光入込客数	50万2千人	56万5千人	12.5%の増
宿泊者数	7万人	9万6千人	37.1%の増
外国人宿泊者数	6千人	1万人	66.7%の増

(2) 地域の観光資源を生かした体験型・滞在型の観光ツアーや半日・1日観光コースなどのモデルコースの提案を考えている。また、本年度実施の「誘客促進事業」は、町内の宿泊施設の宿泊代金を町が一部助成し、割安の旅行商品を企画・販売する事業であり、魅力ある

部助成し、割安の旅行商品を企画・販売する事業であり、魅力ある

旅行商品づくりに向けて各宿泊施設と協議を進めている。  
(3) 和歌山大学との連携事業については、道の駅周辺整備などの検証や広域連携等について調査研究の予定であり、ナウマン象記念館では夏休みの子ども体験学習として、忠類在住の方を講師に招き、ナウマン象などのペーパーオブジェの製作イベントを実施する。

このほか、近年増加している自転車愛好家をターゲットにしたツーリングコースのマップ作成と合わせて、道の駅などにサイクルスタンドを設置していく。

(4) 「町長杯幕別町民パークゴルフ大会」や実行委員会組織でのマラソン大会などを開催している。

スポーツ合宿の誘致に向けては、町内の体育施設や宿泊施設への調査、合宿を受け入れている自治体の視察を行うなど、調査・研究してきたが、費用対効果の観点からも誘致は難しいと考えている。

(5) 平成23年7月に、商工会、観光物産協会、町の3者による協議会

で「道の駅を目指した試験販売を、さらに進める機運は失せてきている。」として、道の駅実店舗設置に係る検討、協議を終了し現在に至っており、当面は、社会情勢の変化を見守ることになるものと考えている。

(6) 地方創生人材支援制度は、国が国家公務員や大学研究者、民間人材を市町村長の補佐役として派遣し、地方版の総合戦略を支援する制度であるが、本町では、公募委員や産業界、大学、金融機関等で構成する「幕別町創生総合戦略審議会」を設置し、総合戦略の策定や施策の推進、効果の検証を進めていきたい。

地域おこし協力隊は、受入れのサポート体制や住民理解などの課題の整理に努め、来年度の導入を目指し検討を進めたい。



「北海道ガーデン街道」で紹介されている十勝ヒルズ